

## 梶田 和美 議員



### (二問一答方式)

- ①交通安全対策
- ②子どもが輝く環境づくり
- ③災害対策の強化

#### 交通安全対策について

**問** 子供の安全を優先的に守るために、ガードレールのない通学路や道幅の狭い通学路など、危険度の高い通学路での通学時間帯には車の進入禁止や速度制限などの対策も検討すべきではないかと考えるが、どのように危険な通学路の確認がされ、対策を講じられているのか。

**答** 通学路は、各小中学校で定期的に状況を確認しており、ま

た、パトロール活動を実施することもあります。今年6月までの危険箇所総数は85カ所で、報告された危険箇所のうち、今後のハード面の整備などを必要とする場合などは、学校からの要望や連絡に基づいて警察署など関係機関による合同点検を随時実施し、ハード面の要望をお伝えして、実施可能な対策を検討しています。

一方、自動車の速度制限や進入禁止などの交通規制については公安委員会の権限となりますので、合同点検の際に大洲警察署にお伝えして、対応をお願いしているところです。ハード面の整備は、長期間かかることが多いため、児童・生徒への安全指導も継続し、自分の身は自分で守る意識づけを行っているところです。

#### 子どもが輝く環境づくりについて

**問** 子供たちに寄り添い、心を開いて話ができる、聞いてくれる方が、先生以外に存在することで、問題が起こる前に対処ができるのではないかと。また、先生の負担もかなり少なくなるのではないかと考える。そういった子供たちに寄り添って話を聞いてもらえる

スクールソーシャルワーカーの存在は重要と考えるが、もっと増やしていく必要はないか。

**答** 本市においては、現在、県の補助事業により、スクールソーシャルワーカー1名を小学校2校に配置をしています。さらに、スクールカウンセラー、ハートなんでも相談員、メンタルサポーターなどを配置し、相談体制の充実を図っているところです。

今後、さらなる諸問題に対応するため、各種相談員体制を強化していきたいと考えられています。県の補助事業を受けての事業として取り組んでいますので、配置の拡充を検討している国の動向を踏まえ、愛媛県教育委員会と協議を行っていきたいと考えているところです。

#### 災害対策の強化について

**問** 地域のコミュニティが地域の防災に果たす役割として大きいことは十分承知しているが、消防団、民生委員、自治会などそれぞれの連携がとれていないのが現実ではないかと言われている。また、地域によって温度差があり、リーダーとなる方の防災意識

によって、地域の取り組みに大きな違いがある。地域それぞれに課題が違うことから、住民主導で防災会議を行うなど、災害があっても減災につなげていかなければならないと思う。これだけ記録を塗りかえるような災害が多発している中で、災害に対する認識の甘さや防災の必要性を地区防災会議などで確認すべきと考える。地区防災会議への取り組みについての考えを伺いたい。

**答** 現在、各地域において、自主防災組織や防災士を中心として、防災訓練や研修に取り組んでいただいています。この活動を計画的に実施したり、避難行動要支援者の情報を活用した地域の新たな活動を計画するなど、自主防災組織の会議や防災に関する会議において、地域で活発に協議をしていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。地域によって防災意識や活動に温度差があることも感じていきますので、地域の防災意識のさらなる向上を図るため、地区防災計画を全地区で策定することを目標として、各地域での取り組みを積極的に支援していきたいと考えています。